

スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカーの 多職種連携コンピテンシーとコーディネーション行動の関連

○金井美穂（神奈川県スクールソーシャルワーカー）

川端美樹[※]（目白大学大学院）

キーワード：チーム援助，多職種連携コンピテンシー，スクールカウンセリング

問題と目的

チーム援助について，従来は教師や学校組織に注目して研究されることが多く，専門職側に焦点が当てられることは少なかった。そこで本研究では，SC・SSWを対象として，医療保健福祉分野の専門職の多職種連携コンピテンシー尺度 Sakai et al. (2016) CICS29 を用いて，コーディネーション行動との関連を検討する。

方 法

手続き CICS29 は，調査対象に合わせて文言を「患者」を「児童生徒」等と読み替えた。2019年7月から9月，大学院を通じて紹介を得た，または，責任発表者が個人的に知る SC・SSW 団体や個人を対象として，多肢選択式の質問紙調査を実施した。

調査内容 ①CICS29（29項目），②瀬戸・石隈（2002）チーム援助コーディネーション行動尺度（30項目，因子ごとに負荷量の高い項目を抜粋），③西山・淵上・迫田（2009）が使用した，学校組織風土尺度（6項目），校長のリーダーシップ尺度（6項目），他。

結果と考察

回答者 SC59件，SSW24件，計83件の有効回答を得た。SCは配置型が46件（78.0%）と多く，SSWは依頼派遣型が19件（79.2%）と多かった。

CICS29の因子分析 CICS29は，最尤法・プロマックス回転により因子分析を行った。第1因子は「チームが掲げる目標を達成するために，自身の実践を調整することができる」等の5項目から成り（目標を達成するためのチームの一員としての行動）と名付けた（ $\alpha=.80$ ）。第2因子は「どのようなときにチームにトラブルが起こりやすいかを知っている」「チームメンバーの専門職としての力量に応じて，必要な支援ができる」等の5項目から成り（チームのリスクマネジメント）と名付けた（ $\alpha=.83$ ）。第3因子は「専門的知識に基づいて他の専門職に意見を述べるができる」「実践している支援の根拠を誰に対しても説明できる」等の4項目から成り（エビデンスにもとづく専門性の発揮）と名付けた（ $\alpha=.67$ ）。オリジナルの6因子構造とは異なり，チーム体制が可塑的・流動的である学校分野の特徴が表れたと考えられた。この分析結果を，以下ではCICSと呼称する。

CICSとコーディネーション行動の相関分析

チーム援助コーディネーション行動尺度は，確認的因子分析によって用いた。ただし〈専門家連携〉は $\alpha=.49$ と信頼性が低く，項目に「カウンセラー」の語を含み，SCとSSWではとらえ方が異なつたと考えられたため，分析には用いなかった。

SCとSSWの t 検定の結果，CICSには差がなかったが，コーディネーション行動〈説明・調整〉ではSSWの方が，〈広報活動〉〈情報収集〉ではSCの方が有意に高かった。そこで，SCとSSWをグループ分けし，CICSとコーディネーション行動の相関分析を行った。SCでは，コーディネーション行動〈説明・調整〉〈保護者・担任連携〉〈アセスメント・判断〉〈広報活動〉〈ネットワーク〉に共通してCICS全因子との間に正の相関が見られる傾向があったが，SSWでは，〈説明・調整〉とCICS〈チームのリスクマネジメント〉との間に正の相関が見られたのみだった。この相違はSCとSSWの専門性の相違，すなわちSCはミクロ・メゾに，SSWはエクソ・マクロに実践の重心を置くことを反映すると思われる。あるいは，配置形態の相違を反映している可能性もある。

SCのコーディネーション行動に関するCICS，校長のリーダーシップ，学校組織風土による重回帰分析

校長のリーダーシップ尺度，学校組織風土尺度を確認的因子分析によって用い，コーディネーション行動との相関分析を行った。その後，十分なデータ数のあるSCのみについて，コーディネーション行動を目的変数とし，CICS，及び，相関の多く見られた校長のリーダーシップ（配慮的），学校組織風土（協働的）を説明変数として重回帰分析を行った（Table1）。〈説明・調整〉〈保護者・担任連携〉〈アセスメント・判断〉にCICS〈チームのリスクマネジメント〉の正の影響が，〈広報活動〉にCICS〈エビデンスにもとづく専門性の発揮〉の正の影響が見られた。

SCのチーム援助におけるコーディネーション行動について，校長のリーダーシップや組織風土といった学校側の要因と，多職種連携コンピテンシーという専門職側の要因が，ともに関連していることが示唆された。

（※目白大学大学院心理学研究科修士論文を再分析・加筆修正）

Table1
SCのコーディネーション行動に関する，多職種連携コンピテンシー，校長の配慮的リーダーシップ，協働的組織風土による重回帰分析（N=59）

	個別援助チームコーディネーション行動			システムに関するコーディネーション行動			
	F1 説明・調整	F2 保護者・担任連携	F3 アセスメント・判断	F1 マネジメント	F2 広報活動	F3 情報収集	F4 ネットワーク
CICS F1 目標を達成するためのチームの一員としての行動	.21	.08	.20	-.07	.03	.16	.17
F2 チームのリスクマネジメント	.46**	.32**	.34*	.27	.24	.04	.24
F3 エビデンスにもとづく専門性の発揮	-.11	.24	.13	.05	.35*	.01	.10
校長の配慮的リーダーシップ	.35**	.20	.12	.18	-.05	.07	.40**
協働的組織風土	-.05	.04	-.03	-.16	.09	.05	-.04
R^2	.46***	.39***	.33**	.08	.30**	.06	.38***

* $p<.05$ ，** $p<.01$ ，*** $p<.001$